

伝統の技



同時開催イベント

- ◆ 竿燈屋台村
- ★ 秋田市役所会場 (秋田市役所市民の広場)
日時/8月2日(前夜祭) 15:00~21:30
8月3日~6日 15:00~21:30
- ☆ 中央会場 (産業会館跡地)
日時/8月3日~6日 15:00~21:30
- ◆ ご当地グルメフェスティバル
日時/8月3日~6日 15:00~21:30
会場/イーホテル秋田アネックス向かい (秋田ニューシティ跡地)

竿燈妙技大会 (昼竿燈)



腕自慢の妙技が冴える竿燈妙技会は、差し手の技術向上に役立てる目的で始められました。規定演技は、流し・手のひら・額・肩・腰の5種目とも30秒、すべて片手で操ります。自由演技は、継ぎ竹を増やしたり、花傘や扇子などの小道具を使った演技が見ものです。

- 会場/「エリアなかいち」にぎわい広場
- 日程
- 8月4・5日/9:00~15:40
 - 大若団体戦予選—規定、自由演技
 - 大若個人戦予選—規定演技
 - 囃子方 予選
 - 《合同演技》(8月4・5日)
- 8月6日/9:20~15:00
 - 大若団体戦決勝—規定(午前・午後)、自由演技(午後)
 - 小若団体戦—規定演技・囃子方(午前)
 - 大若個人戦決勝(午後)
 - 囃子方 決勝(午前)

体験コーナー

参加人数 **100人** (毎日先着順)

ミニ竿燈、幼若が体験できます。
● 8月4・5・6日 12:00~
※時間は短縮される場合もあります。

広告

秋田竿燈まつり

かんとう

国重要無形民俗文化財

8月3・4・5・6日

Akita Kanto Festival 2023

●竿燈妙技大会 予選4・5日 決勝6日

秋田市竿燈まつり実行委員会
【秋田市観光振興課内】(土・日・祝日休業)
TEL.018-888-5602 FAX.018-888-5603

竿燈まつり 検索 <https://www.kantou.gr.jp/>

広告

夜空に揺れる、黄金の稲穂。

竿燈総数約 **280本** 提灯総数約 **10,000個**

稲穂に見立てた竿燈が夏の夜空に揺らめき、五穀豊穡を祈願する「秋田竿燈まつり」。東北三大まつりの一つで、270年もの歴史を持つ国重要無形民俗文化財です。大きな竿燈を自在に操る差し手の技は、日々の訓練とバランス感覚が必要とされます。代々受け継がれてきた伝統の技は、まさに職人芸。昼に行われる妙技大会ではそんな腕自慢たちが技を競います。

竿燈の起源は江戸時代中期とされ、「ねぶり流し」「眠り流し」と呼ばれる睡魔払いのお盆行事だったという説が有力とされています。昔は「夏になると暑さが厳しく、労働もきつく、つい眠くなる。その隙に睡魔が忍び入り、眠り病に冒される」と考えられ、その睡魔を退治するために、眠り流し「竿燈」を行ったと伝えられています。

提灯には町内ごとに町紋が描かれており、そのデザインは帆船や馬などの生活に深く関わる物

や、豊作や子宝を意味する縁起物であったりと様々ですが、ろうそくが灯され浮かび上がるその絵柄はどれも味わい深いものです。

竿燈を盛り上げるお囃子は、町を練り歩くときの「流し囃子」と、演技を行うときの「本囃子」の二つがあります。

また、竿燈の掛け声は、『ドッコイショー ドッコイショー ドッコイショッショ ドッコイショ、オエタサー オエタサー、根ッコツイタ オエタサ』ドッコイショは重い物を持ち上げるときの掛け声。オエタサーはうまく据わった竿燈が、根づいた稲のように動かない意味を表しています。

陽が落ち始めると、会場には「流し囃子」とともに竿燈が集まってきます。そして陽も沈み提灯が灯され、笛の合図でお囃子が「本囃子」になり演技がはじまり、稲穂のように揺らめく竿燈が夜空を照らします。



広告